

ディリー・ジーザス・ニュース #207

イエスの宣教

イエス」の迷い、そして見つかった羊」のたとえ話

ルカ15.1-7 (繰り返しテキスト : マタイ18.12-14)

1さて、徴税人や」罪深い人々」は皆、イエスの話を聞こうとして集まってきた。2ところが、パリサイ人や律法学者たちは、互いにぶつぶつ言い合った。「この人は、罪人たちを迎えて一緒に食事をする習慣がある。」

3そこでイエスはこのたとえ話を彼らに話しました。4「あなたがたのうちに、百匹の羊を飼っている人がいて、その一匹がいなくなつたとします。その人は、九十九匹を野原に残しておき、いなくなつた一匹を見つけるまでは探し回らないでしょうか。

5そして彼はそれを見つけたので、喜んでそれを肩に担ぎ 6そして、それを家に持ち帰り、友人や近所の人々を呼び集めて言います。『一緒に喜んでください。いなくなつていた羊を見つけました。』

7「あなたたちに言いますが、同じように、悔い改める一人の罪人については、悔い改める必要のない九十九人の正しい人についてよりも大きな喜びが天にあります。」

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ =^{MT} 、マーク=^M 、ルカ=^L 、ヨハネ=^J 、使徒行伝=^A 。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、**赤いイタリック体**はイエスの言葉を示します。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト	
位置	ペレアのどこか
タイムライン	1月または2月 (36ヶ月目と37ヶ月目)
イエスの生涯の文脈	第7段階：ペレアにおけるイエスの宣教
	A.ペレア全土におけるイエスの奉仕者たち
タイトル	6. イエスの「迷い、そして見つかった羊」のたとえ話

コメント：

9月初旬にガリラヤを去ってから数ヶ月の間、イエスはユダヤ地方、そしてペレア地方の町や村を巡りながら、全力で従う約120人の弟子たちに、弟子としての教えを絶えず教え続けておられました。エルサレムの受難週で地上での宣教を終える前に、イスラエルの民への福音宣教を完遂することがイエスの目標でした。

ディリー・ジーザス・ニュース #207

イエスは、私たちの生活のすべてをイエスの基準に合わせるという弟子としての重要な原則を絶えず強調しておられたことを私たちは見てきました。イエスの考え方、態度、行動パターンを学び、そしてイエスに同調することによってです。ルカ15章は、この原則を、まだ信者ではない人々に対する私たちの態度に適用しています。

「罪深い人々」に対する神の態度を明らかにしています。物語の四番目で最後の部分は、そもそもこの一連のたとえ話を自分たちの全く間違った考え方によって引き起こしたパリサイ人の誤った態度に直接当てはります。

今日の朗読は、これらの有名なたとえ話の背景を説明しています。イエスは「徴税人」や「罪深い人々」を仲間として迎え入れ、食事を共にするほどでした。パリサイ人は、彼らを忌み嫌われ、恥じ入るべき、極めて卑劣な人々と見なしていました。これは当時の文化における一般的な見方でもありました。彼らは、「靈的な」人々や「義人」が軽蔑すべき人々と交わるイエスを厳しく非難しました。

イエスはなぜ「罪人」を迎えたのでしょうか。イエスは、彼らがイエスのもとに来た時、変化を求め、悔い改めようとしていたことを見ました。彼らは、周囲の社会から追放され、悪として非難される中で、神と共に希望が本当に自分たちにあるのかどうかを知るためにイエスに近づいてきました。彼らは心を開き、探求し、自分自身について完全に正直に、イエスのもとにきました。

イエスは彼らと交わりを持つことによって、神の愛ある態度を示されました。たとえ話は、その態度をより詳細に説明するために作られました。罪深い人々が自分の罪や失敗を正直に認め、変わろうとしていることについて、神は実際にどう考え、どう感じているのでしょうか。

イエスは三位一体の三つのたとえ話を語りました。それは、ご自身を良い羊飼い、聖霊を光で探し求める者、そして悔い改めた子どもたちを愛し迎え入れる父として描写したものです。これらのたとえ話は、神との関係から離れた罪深い人々と再び繋がることへの神の喜びを描いています。

今日の朗読は、神が一人の罪人を探し出し、再び繋がる喜びに焦点を当てています。イエスは、99匹の羊を一時的に安全な場所に残し、遠くへ迷い、無力な状態で死んだも同然のたった一匹の羊を探し出し、連れ戻す羊飼いです。

羊飼いは迷子の羊を見つけて大喜びします。羊を非難したり責めたりするのではなく、羊との関係の修復を祝うパーティーを開きます。

「罪深い人々」と交わりを持ちました。彼らを創造し、彼らを知り、彼らのために命を捧げるほどに彼らを愛したからです。それは、彼らが永遠に神と親密な関係を持てるようにするためにでした。私たちが神を愛しているのではなく、神が私たちのために永遠の宴を催すほどに私たちを愛し、そして私たちが神の招きに応じることができるように、神が出かけて私たちを見つけてくださるのです。

これが神の喜びです。私たちは神にとってそれほど価値があり、尊い存在なのです。

応用：

ディリー・ジーザス・ニュース #207

このたとえ話を理解すると、神が私たちをどれほど愛し、それゆえに私たちとの交わりを大切にしておられるかが分かります。神は、私たちが神の完全な愛の栄光の中で生きることの恩恵を十分に受けられるよう、私たちを奴隸として仕えてほしいと願っておられるのです。ご自身の喜びのために私たちを利用するためではありません。むしろその逆です。

ですから、まだイエスを信じていない人々に対する私たちの態度は、イエスと同じであるべきです。

私たちは、主の失われた羊を探し出し、主の救いのメッセージを彼らと分かち合うことに大きな喜びを感じるべきです。

私たちも、イエスがそうされたように、すべての人を交わりと愛の中に迎え入れるべきです。

私たちは、まだイエスを信じていない人たちより自分が優れているなどと考えるべきではありません。むしろ、罪深い状態の私たちを見つけてくださったイエス様が、彼らも見つけて回復させようとしてくださることを喜ぶべきです。

あなたは非信者に対して批判的な態度を取っていますか、それとも喜んで彼らを歓迎し、彼らにイエスの希望のメッセージを伝えるよう心がけていますか。

失われた羊に対するイエスの態度に合わせるために何をする必要がありますか。